

北上市では約5万人の方が働いており、その中には女性も県外から来た人も育児や介護をする人などがいて多様なライフスタイルを送っています。

この「なりわい事例集」では、

働く人の多様な視点から見た企業の魅力や働く人が輝く職場づくり
などについてインタビューしています。



なりわい事例集 vol.4

株式会社キタカミデリカ

「見る」力で学び、自分なりに工夫する

— 配慮してくれる、でも、特別扱いはしない職場環境 —

キューピーグループの一員として2003年に設立。以来、安全・安心でおいしいサラダや総菜などを東北6県のスーパーやコンビニなどに毎日届けています。

<https://kitakamidelica.deria-foods.co.jp/>

所在地：岩手県北上市相去町大松沢1-89

「見る」力で学び、自分なりに工夫する

— 配慮してくれる、でも、特別扱いはしない職場環境—

#働く前の不安

#入社前の職場体験

#聴覚障がい

#特別扱いしない

#本人の希望に沿った勤務時間

#筆談やジェスチャー

#一人ひとり違う障がい

#必要なときは補助する

#自然に目配り配慮できる職場環境



たかむら かな

高村 佳奈さん(26)

勤続4年/盛付作業/
聴覚障がい

以前は就労支援施設でパン作りをしていて、株式会社キタカミデリカの仕事に興味を持ちました。入社前に職場体験をしたのですが、上司や先輩が作業のやり方を丁寧に教えてくださったり、わからないことも丁寧にいろいろ教えてくださったりしたのでここで働いてみたいと思いました。

今は、いろいろなお惣菜やサラダの盛付を担当していて、盛付作業の最後に商品内容がきちんと盛り付けられているかを確認してからフタをする「フタ閉め」の担当もしています。勤務時間や勤務日数は私の希望に合わせて調整していただいている、勤務時間は朝8:30～16:00まで、勤務日数は1ヵ月で20～21日くらいです。

働く前は、仕事中はマスクをつけているので口の動きがわからず、先輩や上司の指示やアドバイスをうまく理解できるか不安でしたし、私からコミュニケーションを取る場合も私の声やジェスチャーできちんと伝えられるか不安でした。

でも、入社したときから先輩や上司が私に合わせて筆談してくださったり、話すときもジェスチャーを交えて声を大きくゆっくり話してくださったりするので、すごく助かっています。

会社のみなさんが、私が働きやすいように一生懸命に伝え方の方法を考えてくださっ

たお陰で私は今まで仕事ができていると思います。

良い上司や先輩、仲間に囲まれて仕事ができているので株式会社キタカミデリカで働いていて良かったと思います。

これからも仲間と協力し合いながら、安全・安心の商品をお客さまにお届けしたいです。



上司の
おおほらのびき
大洞 信幾さん
にもお話聞きました！



高村さんはとても真面目に仕事に取り組まれています。入社したばかりの頃は、簡単な作業をするのが精一杯で、コミュニケーションもうまく取れないことが多かったです。でも、耳が聞こえない分、「目」で周りの作業をしっかりと見て勉強している様子が伝わってきました。例えば、片手ずつ違う食材を扱う作業では、最初はラインスピードについていけなかったんですが、他の方のやり方

を見て学んだり、自分がやりやすいように作業台を調整したりして工夫を重ね、今では他の人と同じように作業ができるようになっています。

それに、経験がないと任せてもらえない「フタ閉め」の作業も、高村さんは「見る」力を活かして問題なくできるようになっていて、本当に素晴らしいと感じています。さらに、高村さんはコミュニケーションも積極的で、困ったときは自分から質問したり、ジェスチャーを交えて他の人とやり取りしています。工場内ではマスクで口元が見えないので大変かと思っていたんですが、高村さんは声を出して質問してくれることもあって、



▲高村さんを驚かせないように高村さんの前に立ち、ジェスチャーでコミュニケーションするスタッフ

母音が聞き取りやすく、それがコミュニケーションの助けにもなっています。一緒に働く方も高村さんが驚かないように配慮していて、近くを通るときは距離を取るようになり、話しかけるときは必ず高村さんの視界に入ってから伝えるようにしています。

現在、知的障がい者4名、精神障がい者3名、身体障がい者1名の計8名が働いており、



一人ひとりの適性に合った作業を担当していただいています。

障がいは一人ひとり違うので、無理なく働き続けられるよう、株式会社キタカミデリカでは、本人の要望に沿った就労時間や働き方を調整しています。



障がい者の方と一緒に働くことで、他のスタッフも自然に目配りや配慮ができるようになり、新しく入職した障がい者の方に対してもスムーズに対応できています。社内の理解を深めるために、入職の前に職場実習の機会を設け、一緒に働くことでメンバーに障がい者のことを理解してもらうようにしています。

障がいがある方と一緒に働くうえで大切にしているのは、「特別扱いしない」と、「必要なときにだけ補助を行う」ことです。基本的には、ひとりでがんばれそうなところは手を出さず、本人にがんばってもらっています。高村さんの場合、聴覚の障がいがあるため、周りの音が聞こえず、接触・転倒によるケガなどにつながる心配があるのでそこに関しては気を配りますが、仕事中はそれ以外で特別扱いすることはありません。本人もとても努力をされているので、私も他の方と同様に接していますし、他の方と同様に仕事をがんばっていただいています。



▲高村さんと作業をする大洞さん